

# まいぶんfan

向日市の埋蔵文化財の最新情報を提供します。

Archaeological Information of Muko-city, Kyoto-pref, Japan



右京第1216次調査出土墨書土器



宝菩提院廃寺の立地と周辺の景観（南から）



宝菩提院廃寺創建期の瓦窯灰原（南東から）



# 新展開！宝菩提院廃寺の調査研究

寺戸町西野

令和2年度に実施した発掘調査のなかで、最大のトピックは、宝菩提院廃寺（推定長岡寺）の創建期瓦窯の灰原を確認したことで、出土総量 300 箱におよぶ遺物には、多種多彩なものが含まれていました。とくに、新種の軒丸瓦や異なる型式の鴟尾、敷塼に使うために焼かれた多くの塼の存在などは重要な発見といえます。

また、長岡京期から平安時代前期までの墨書土器と施釉陶器も出土しており、平安京へ遷都した後も当寺院が朝廷と密接な関係を保持していたことがわかります。

調査地は向日丘陵の東側斜面上に位置し、西と南の両側から傾斜する地形にはさまれた谷部にあたります。調査地の北北西約 50m の地点では、これまでに創建期の瓦窯にともなう灰原が確認されており、西と南の両斜面に築かれた2基分の窯跡の存在が想定されていました。

今回、2箇所の調査地（長岡京跡右京第 1216・1225 次）で3基目の瓦窯にともなう灰原、長岡京期～平安時代前期の整地層および礎石建物、室町時代の落ち込みなどが確認されました。窯の焚き口からかき出された炭は、北から南側に向かって薄くなる傾向がうかがえ、その南端をとらえたと考えられます。この直上には瓦だまりをたくさんで造成土が堆積し、大量の焼成不良瓦が廃棄されていました。灰原として使われていた谷のくぼ地は、埋められた後、仕上げに瓦を敷き詰めて舗装し、境内地の拡充が行われていたようです。

出土した長岡京期から平安時代前期にかけての遺物には、緑釉陶器（椀・高坏・火舎）と灰釉陶器（浄瓶）、墨書土器には、「大膳」、「山寺」、「寺」などが注目されます。古代の寺号については、出土した文字資料から「山寺」と呼ばれていたことが明らかになりました。当寺院は丘陵裾から斜面・頂部にかけて堂塔が築かれており、さながら山寺のような寺観をもっていたことが、このような別称の由来になったと思われる。

また、大膳職という宮中の食事や儀式の膳を司る役所が、寺院の維持のために食料を配給していたことをさらに裏付ける資料も蓄積されています。今回、寺院の性格に関わる多くの遺物が出土し、文献史料からはうかがうことができない、重要な成果を得ることができました。当寺院の調査研究も大きな転機を迎えたといえるでしょう。



宝菩提院廃寺瓦窯の灰原に集積する各種瓦類



# 前方後円墳出現過程の解明に向けて～いつかはら『五塚原古墳の研究』発刊～

五塚原古墳の発掘は10次の調査が重ねられ、このたび当センターと立命館大学による調査報告書を統合し、新たな論考を加えて、向日丘陵古墳群調査研究報告第3冊とする『五塚原古墳の研究』を刊行いたしました。

発掘を通じて明らかにしえた五塚原古墳の特質は、次の五つに集約されます。

- ①墳丘長91.2mの前方後円墳で、細くて低いくびれ部からバチ形にひろく前方部を有する。
- ②後円部三段、前方部二段を基本構造とするが、斜面途中の平坦面は同じ高さでめぐらない。
- ③葺石と礫敷を備えて、墳丘全体を「石の山」に仕上げる。
- ④後円部に長大な川原石積竪穴式石槨を構築し、前方部埋葬は設けないが、周辺埋葬を伴う。
- ⑤埴輪の樹立はなく、後円部の墳頂に供献土器（庄内式新相～布留式初頭の様相）をならべる。

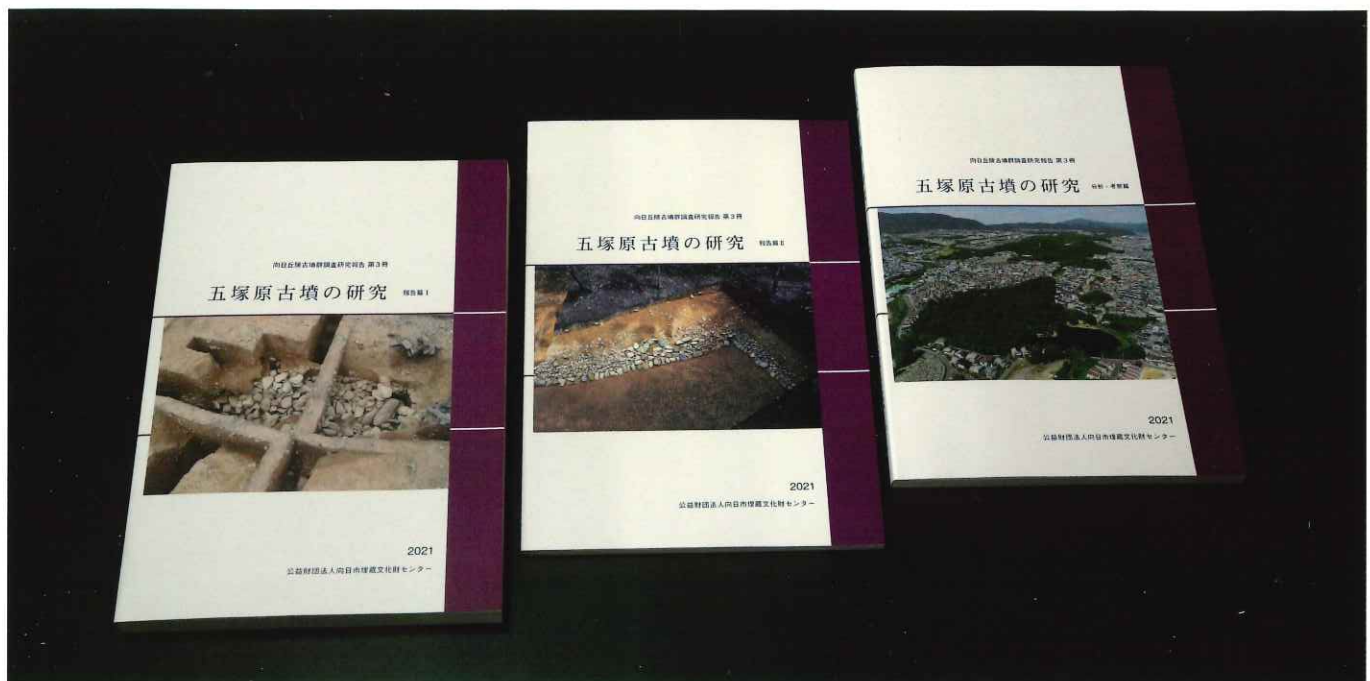
五塚原古墳は墳丘の形態と構造は、箸墓古墳や纏向東田大塚古墳と同一の要素を備えており、両墳とおなじ「布留0式」期の築造と考えてきた調査経過があります。また、後円部墳頂の墓坑壁出土の炭化材を分析して得られた放射性炭素年代は、最新のIntcal20による較正年代の数値が「128calAD-243calAD」の範囲を示していました。墳丘構造が示す時期的な特徴に加えて、土器の編年観と自然科学分析の評価は整合的に理解できます。したがって、本墳の築造年代は、3世紀中葉を軸に検証を重ねていく必要があります。

以上の認識をふまえ、歴史的に重要な問題として、本墳が箸墓古墳築造期の最古型式前方後円墳であることが確定できたことは大きな意味をもちます。これまで乙訓最古と目された前方後円墳の元稲荷古墳よりも古墳の出現が早まり、弥生墳丘墓が不在で方形周溝墓の造営地域に突如、大型前方後円墳がつくられたことになるからです。その背景には、大和政権の直接的な関与があり、箸墓古墳や東田大塚古墳の被葬者と密接な関係を有した有力者集団が乙訓地域に存在したことが考えられます。

五塚原古墳は、箸墓古墳に象徴される「定形化した前方後円墳」の出現過程とその背景を探る上で歴史的にきわめて重要な位置を占める存在となりました。このような立場にたつからこそ、王権中枢が各地の有力集団を親疎の関係性や政治経済的な実力の差に応じて秩序づけし、地域の統制に影響力を与える形で中央と地方の関係を定着させていく道程を詳細に解き明かせると意義づけられるのです。

本書が地域史や古墳時代史を究明するための基本文献として、広く活用されることを期待しています。

A4版三分冊箱入り 2021年11月発刊 定価6,400円



『五塚原古墳の研究』三分冊の見本



## 史跡長岡宮跡内裏「東宮」地区の発掘と整備状況

長岡宮の内裏「東宮」は、平安宮と同じように天皇の居所を内郭築地回廊と外郭築地で二重の防御施設により護られていたことが、平成29・30年度の調査でわかっています。この調査成果をふまえて整備工事がすすめられ、令和3年11月23日に外郭築地は南内裏公園として、また南面築地回廊の一部は国登録有形文化財「旧上田家住宅」としてオープンいたしました。

内裏「東宮」地区での史跡整備は、内郭築地回廊の北西部にあたる内裏公園に次ぐものとなります。南内裏公園では、長岡宮最大規模の築地塀をイメージできるように、また、旧上田家住宅では南面築地回廊の基壇や柱、雨落ち溝の位置がわかるように表示し、一部を復元しています。

長岡京の造営にあたって、国家中枢の殿舎配置は内裏一大極殿一朝堂院という南北の並びから、内裏を切り離してこれを東西に置き替えました。内裏が西や東に設けられ、王宮の中軸線からはずされたのはいかなる理由によるものなのか、桓武天皇の王宮を考えるうえで興味深い問題です。

旧上田家住宅では史跡長岡宮跡案内員を配置し、内裏地区の案内にあたっています。ご来館をお待ちしています。  
所在地：向日市鶏冠井町東井戸64番地 開館時間：午前9時30分～午後4時30分 観覧無料 駐車場あり  
休館日：月曜日（祝日の場合はその翌日） 毎月1日 問い合わせ ☎ 075-874-1023 FAX075-874-1082



内郭南面築地回廊調査状況（北から：長岡宮跡第527次地点）



旧上田家住宅の内郭築地回廊整備状況（北から）



外郭築地調査状況（北から：長岡宮跡第521次地点）



南内裏公園の外郭築地整備状況（北から）

編集・発行

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター  
〒617-0004 京都府向日市鶏冠井町上古23  
TEL：075-931-3841 FAX：075-931-4004  
<http://www.mukoumaibun.or.jp>

令和4（2022）年1月14日

2022.1. 20005